

## 式 辞

第三十六期生、卒業生の皆さん、

「卒業おめでとう」「ぞい」ます。【礼】

『卒業証書授与式』を挙行し、保護者の皆様、『来賓の  
「臨席のもと」、一五五名の卒業生の門出を祝う』ことができ  
ます」とを、教職員一同、心より喜んでおります。

「臨席の保護者の皆様、本日は、お子様の「卒業、誠に  
おめでとう」ぞい」ます。【礼】「誕生から十五年間経ちま  
した。誕生日とともに、人生の節目、義務教育修了の今日、

十五年間の喜びと「苦労含めて、」の良き日を迎えてられま  
した」と、祖父母様も含めて「家族の方々に心からお祝い  
を申し上げます。【礼】

松尾中学校での三年間、至らぬ点も多々あつたと思いま  
すが、格別の「理解とまた」「協力をいただきました」と、  
感謝申し上げます。

竹内まりやさんといふ歌手の、「人生の扉」という歌は

『春がまた来るたび　一つ年を重ね　目に映る景色も少しずつ変わるよ』で始まります。

人生の門出は、希望に満ちているとともに、ときには痛みを伴うものです。慣れ親しんだ友人との別れ、新しい場所での不安などです。竹はひととき成長が止まつたかに見える冬に力を蓄えて節目を作つていき、その時期を突破して生長するように、人生の逆境に見舞われたときなどマイナスの体験こそ、新しい自分と出会い「」ができる成長のチャンスなのです。」のことは青年前期にある皆さんだけではなく、何歳になつても同じなのです。

「人生の扉」は「う続きます。

『二十歳になつたときは全てが楽しかつたわね。あなたは「素晴らしいのは二十歳よ」と言つし、みんなは「自分を愛おしく思えるのは四十歳よ」と言つけど五十歳も悪くはないわよ』

やうに続きます。

『「元気な六十歳になりたいわ」と書いたら、あなたは「七十歳になつたつても大丈夫よ」と言つて、みんなは「八十歳になつたつてまだまだ楽しいわよ」と言つけど、でも私は九十歳を過ぎても生きていくつもりなのよ。』と。

義務教育を終えた皆さんには、二十歳は想像できても三十歳、四十歳は遠い先のことと思えるでしょう。私が伝えたいのは、「人生はいつも『今から』」から、そして、年齢フリー、年は関係ない』という』とです。

卒業という節目にあたり、「人は何から、どういう」とから学ぶか」ということにについて三つ話します。

一つ目は、「人」との出会いです。「人生は出会いと縁」です。出会いこそ宝です。待っていてはいけません。自分から求めて、一歩踏み出してさぼさまな人と出会つてください。良い出会いを得るために必要なことは、あなたの方自身の在り方です。具体的には、「笑顔で過ごす、好きなことをして生きる」ということです。これからも生涯にわた

る良き友と出会いてください。

「一つは、「本」からの学びです。一冊の本が、言葉が人生を変える」ともあるのです。特に、歴史を学ぶ」とはどんな職業に就いても、どんな世界に行つても大切です。古典と言われるものの中の人間の生きる型、そのときどう動くかの判断など未来に生かせる」とが詰まっています。

三つ目は「旅」です。これは、見知らぬ場所に旅行して視野を広げると「う」とだけではありません。現場に足を運ぶ、といふことです。リモート、ズーム等を活用するとともに、忘れてはいけないのは、そこに行つて体感する」と、今いる場所から出かけると「う」とです。「えんとつ町のペル」という物語がありますが、『あの雲の向』「うに星なんかあるわけない』という昔からの言い伝え、世間の常識に「徒じたず」に流されないためには、前例がなくとも、贊同者がいなくても、ときには信じた道に失敗を恐れず、挑戦していく」とです。人生の旅に一歩踏み出すのです。

「人」「本」「旅」覚えていてください。

不自由な思いをさせた一年でしたが、修学旅行と体育祭という行事ができたことは喜びの一つです。修学旅行は三度目の正直、壱岐島<sup>いきのしま</sup>をはじめ大刀洗平和記念館、門司港レトロ、多くのことを学びましたね。そして何にもまして同級生とエンジョイできた経験、一生の思い出になりました。私自身、生涯忘れない二泊三日になりました。体育祭も三年生を中心とした、松尾中学校のリーダーとしての奮闘に心が震えました。

『「人生の扉」の歌の終わりに、「人生には何の意味もないのよ」という人がいるけど、「生きる」とは価値があること』だつて信じているの。』とあります。

筑波大学名誉教授の村上和雄さんが、「人間は三十七兆個の細胞からできていて、遺伝子はそれぞれの役割を果たすことで個体を成り立たせている。人間社会も一人一人果たすべき役割は違いますが、それらを補い合い、チームと

して協力して世の中は動いていくのです。コロナ禍であるからこそ、「の、利他の心、貢献する生き方が大切なのです。」と語つておられます。同じ仕事をしていくても、自分が食べるためだけに仕方なく「なしている、ではなく「人の役に立ちたいという想い」ですると、それが生きた仕事になるのです。

人は、誰かのため、と思ったとき、自分の限界を超えられるのです！

皆さん一人一人は例外なく、何ができなくとも、何を持つていなくとも、存在していることそのものが尊いのです。全ての人は生を受けたとき、「天命」「使命」が与えられているのです！

今日からの人生に、「幸あれ！」と祈ります。

最後になりましたが、中務会長はじめPTA本部役員の皆様には、今年度今までにない異例ずくしの一年でしたが、臨機応変に対応してくださいました。感謝しております

す。【礼】

「私」とになりますが、今年度末で三十八年の教員生活を終えることになりました。教職員の皆様、長い方でも三年という短い年月でしたが、森田教頭先生始め皆様に支えられて年度末を迎えることができました。」の場を借りて御札を申し上げます。【礼】

松尾中学校が最後の中学校で幸せでした。

今後は、そりに、「」の松尾中学校を「子どもたちが通いたい、保護者に信頼され、地域に愛される学校」となりますよう盛り上げていってくださいますようお願いして、式辞とさせていただきます。

卒業生の皆さん、「」の「晴れ」の日、新たな旅立ちのとき、本当におめでとうございます！

令和三年三月十五日